

J T S U - E 水地申第 2 号

2 0 2 2 年 9 月 6 日

東日本旅客鉄道株式会社  
水戸支社長 小川 一路 殿

J R 東日本輸送サービス労働組合  
水 戸 地 方 本 部  
執 行 委 員 長 黒 澤 純 一

2 0 2 2 年 8 月 2 0 日、水郡線 3 3 4 D において発生した  
「業務用タブレット不具合」に関する緊急申し入れ

2 0 2 2 年 8 月 2 0 日、水郡線 3 3 4 D 列車が郡山駅～安積永盛駅間走行中、突然業務用タブレットの不具合が発生し、「D-T A C」による時刻表が確認できない事象が発生しました。事象発生後に当該運転士は、状況を輸送指令に報告し、その後の運転の指示を受け常陸太子駅に 2 3 分遅れで到着しました。

当該運転士の申告によると運転中に突然、正常に表示されていた「D-T A C」の時刻表から別のアプリに切り替わったとのこと。その後、本人の業務用タブレットを調査した結果、「D-T A C」使用中に「V I P E R 2」アプリが強制起動し、「D-T A C」が使用できない状況であったことが判明しました。

しかし、翌日や翌々日の一部マスコミ報道によると「J R 水郡線運転士が電子時刻表のパスワード失念 発着時間確認できず遅れ」「タブレットのパスワード忘れ、電子時刻表見られず J R 水郡線に遅れ」なる見出しで殊更、運転士に責任があるかのようにクローズアップされました。また、会社は発生した事象に対して「このような事象を繰り返さないよう、改めて指導を徹底する」と一部マスコミ報道を通してコメントをしています。当該運転士は正当な取り扱いを行ったにも関わらず、あたかも「運転士のミス」かのように切り縮めたコメントがされたことは、断じて認めることはできません。

この間、乗務員が長年使用してきた紙媒体の時刻表から試使用期間を経て、2 0 2 2 年 6 月 1 日から業務用タブレットの電子時刻表による「D-T A C」の本使用に切り替わりました。しかし、使用開始間もない 7 月 1 日の早朝にはサーバーダウンが発生したことで「D-T A C」が全支社で使用不可能になり、現場が大混乱に陥ったトラブルも発生しています。今回の事象も含め、システム化による弊害は明らかであり、社員の教育以前にリスク管理やバックアップ体制の構築などの具体的な対策を講じなければ問題の解決には至りません。

よって、今回の事象を社員個人に責任を転嫁せず、安全最優先の企業風土構築を目指し、下記のとおり申し入れますので会社の誠意ある回答を求めます。

## 記

1. 本事象が発生した原因を具体的に明らかにすること。また、事象内容を正確に社員周知すること。
2. 今回の事象を踏まえ、「D・TAC」不具合時の具体的な対策を早急に講じるとともに、全社員に対して教育を実施すること。

以 上